

SDGsの基礎知識(1)

営業部 学術・安全管理室 室長
堤 信幸

最近SDGs(エスディーゼーズ)ってよく見かけたり、耳にしますが、何なのでしょう。畜産とどのような関係があるのでしょうか。あまり難しくならないように、少しずつ読み解きながら進めていきましょう。

まず、SDGsとは何でしょう？

日本語に訳すと「持続可能な開発目標」となります。この言葉が最初に出てきたのは、2015年9月の国連サミットです。150を超える加盟国首脳が参加している会議で、全会一致で採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」というものがあります。このアジェンダは「国際連合広報センター」のウェブサイトから読むことができます。前文の3段落目に「持続可能な開発目標(Sustainable Development Goals)」という言葉が出て来ます。その頭文字をとってSDGsと呼んでいます。

目標(Goals)となっていますが、具体的には何なのでしょう？

先進国・途上国に関わらず、世界の全ての国を対象にして、経済・社会・環境の3つのバランスがとれた社会を目指す世界共通の目標として、17のゴールが定められています。その中に、さらに169のターゲット(達成基準)というのがあります。17のゴールを紹介します。ちょっと長いですが、一通り読んでみてください。英語の記載も付けておきます。日本語と英語を比べると、英語の方がシンプルなのが分かります。

1. 貧困をなくそう -No poverty
2. 飢餓をゼロに -Zero hunger
3. すべての人に健康と福祉を -Good health and well-being
4. 質の高い教育をみんなに -Quality education
5. ジェンダー平等を実現しよう -Gender equality
6. 安全な水とトイレを世界中に -Clean water and sanitation
7. エネルギーをみんなにそしてクリーンに -Affordable and clean energy
8. 働きがいも経済成長も -Decent work and economic growth
9. 産業と技術革新の基盤をつくろう -Industry, innovation, infrastructure
10. 人や国の不平等をなくそう -Reduced inequalities
11. 住み続けられるまちづくりを -Sustainable cities and communities
12. つくる責任つかう責任 -Responsible consumption and production
13. 気候変動に具体的な対策を -Climate action
14. 海の豊かさを守ろう -Life below water
15. 陸の豊かさを守ろう -Life on land
16. 平和と公正をすべての人に -Peace, justice and strong institutions
17. パートナリーシップで目標を達成しよう -Partnerships for the goals



図1. SDGsロゴ

それぞれの詳しい説明は、インターネットで検索すれば出て来ますので、本稿では省略します。ここでは、畜産業界に関係が深いものを抜き出して紹介したいと思います。ただし、世界の置かれている状況と、日本の状況では異なるところも多々あります。例えば、国際連合食糧農業機関(FAO)の資料を見ますと、ゴール8の「働きがいも経済成長も」については「家畜生産額が農業総生産額の4割を占め(2014年)畜産物に携わる雇用人口は世界で13億人になる」、ゴール10「人や国の不平等をなくそう」に関しては「とりわけ酪農は5億人の貧困層の食糧源と収入源になり、女性、高齢者、若者を労働市場に吸収している」と書かれていて、日本が取り組むべき直接的なゴールがイメージしにくいように思います。

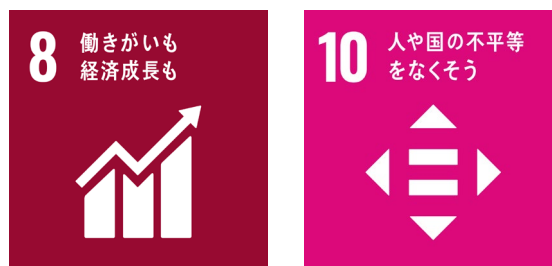


図2. SDGsアイコン(ゴール8、10)

一方で、我々が普段接している日本の畜産業からイメージしやすい取り組みとしては、ゴール3「すべての人に健康と福祉を」は薬剤耐性菌や人獣共通感染症について、ゴール6「安全な水とトイレを世界中に」やゴール14「海の豊かさを守ろう」は、水資源(飲料水)だけでなく漁業や污水处理の問題も含まれます。ゴール12「つくる責任 つかう責任」では農場を作るために山を切り開いて木を伐採することや、前述の畜産に使用する水についても言及されています。ゴール13「気候変動に具体的な対策を」では、糞尿処理や牛の消化管内発酵による温室効果ガスの排出について、ゴール15「陸の豊かさを守ろう」では過放牧によって放牧地の生態系の破壊などが懸念されています。それでは、日本の畜産からイメージしやすい上記のゴールについて、まずは農林水産省のウェブサイトにある説明を手がかりとしてFAOの資料と共に詳しく見てみましょう。

ゴール3「すべての人に健康と福祉を」この目標は、主要な感染症の流行に終止符を打って、感染症以外の病気や環境が原因の病気についても減らすことを目指しています。畜産から人が得ている利益はお肉だけでなく、卵や牛乳、油、皮革などたくさんあります。一方で、畜産動物や魚にはインフルエンザ、カンピロバクター、E型肝炎、サルモネラ、大腸菌、ブルセラ菌、アニサキスなど、人に感染する病気がたくさんあります。人に感染はしませんが、CSFやASF、口蹄疫、ニューカッスル病など持続可能な畜産業を脅かす病気もたくさんあります。しかし、これらに抗菌薬を使用することは、薬剤耐性菌(AMR)を生み出す原因となることが広く知られています。2013年度のAMRに起因する死亡者数は、少なく見積もっても70万人。対策を講じなければ、2050年に1000万人もの人々が死亡すると推定されています。がんによる死亡推定者数が820万人なので、がんよりも多くの人が感染症で死ぬ可能性があります。そのため、AMRについては農林水産省や厚生労働省が中心となってOne Healthという取り組みが始まっています。詳しくはAMRリファレンスセンターのウェブサイトに書かれていますので、ご参照ください。

特別難しい取り組みは必要ありません。畜産動物が病気にならないよう、健康に育てることが第一になります。そして、今もすでに取り組んでいる、予防的に抗菌薬を使うような不適切な抗菌薬の使用をやめることがゴール3の内容です。SDGsの導入からゴール3までで紙面が尽きてしまいましたので、ゴール6から15は次号に持ち越したいと思います。



図3. SDGsアイコン(ゴール3、6、12、13、14、15)